

## ⑫特許公報(B2)

昭55-47956

⑬Int.Cl.<sup>3</sup>C 02 F 1/40  
B 08 B 1/00  
E 02 B 15/04

識別記号

庁内整理番号

7305-4D  
6630-3B  
6654-2D

⑭⑮公告 昭和55年(1980)12月3日

発明の数 1

(全2頁)

1

2

⑯多層回転円板式油回収機の油掻き取り用ワイパー

⑰特 願 昭49-61789

⑱出 願 昭49(1974)6月3日

公 開 昭50-154942

⑲昭50(1975)12月14日

⑳発 明 者 植田靖夫

川崎市多摩区百合ヶ丘3丁目9番  
3号

㉑発 明 者 竹沢節夫

三鷹市新川6丁目38番24号105

㉒発 明 者 上田浩一

武蔵野市吉祥寺北町1丁目18番25  
号

㉓出 願 人 運輸省船舶技術研究所長

(出願人において、実施許諾の用意がある。)

(公害防止関連技術)

## ㉔特許請求の範囲

1 油回収機が多層円板等に付着した油を掻き取るための、断面が台形状の薄い板バネの両側端に薄い帯状のテフロンを取り付けた多層回転円板式油回収機の油掻き取り用ワイパー。

## 発明の詳細な説明

水面上に流出した油を回収する方法として、多層回転円板式油回収機がある。この回転円板式油

回収機とは、連続回転する円板の一部を浮遊油中に浸け、回転円板に付着した油を連続的に掻き取って油を回収する装置である。この装置は、多数の円板と油掻き取り用のワイパーを使用するため5 に摩擦力による動力損失が大きい。この摩擦による動力損失を少なくするために発明したのが、このワイパーである。

この発明は、図1に示すように摩擦係数の小さい薄いテフロン①をネジ②と接着剤③で台形状の10 板バネ④に取り付け、回転円板上に付着した油を掻き取る摩擦力を小さくしたワイパーである。図3に示すように表層油⑥を円板⑨に付着させ、このワイパー⑦で油を掻き取り、とい⑧へ油を流し込むためのワイパーである。図2の⑤はワイパー15 取り付け用穴である。

このワイパーを使用すると合成ゴムを使用したワイパーに比べて摩擦による動力損失が非常に少なく、しかも油が漏れなく、且つ合成ゴムのごとく油により柔弱にならない。故に多層回転円板式20 油回収機等のように、数多くのワイパーを使用する機械には効果が大きい。

## 図面の簡単な説明

図1、図2にこの発明による油掻き取り用ワイパーの一実施例を示す。図1はワイパーの側面図、25 図2は平面図である。図3はこのワイパーを多層回転円板式油回収機に使用する場合の一実施例である。

